第26号
2005.1

男女共生社会推進センター

りいぶる

～男女共生社会づくり～

特集

●りぃぶるフェスタ2004

りぃぶるフェスタ2004

～みんなが主役、共同参画～

12月4日に和歌山ビッグホエールアリーナで開催された「りぃぶるフェスタ2004」では、ゲストに海原純子さんを迎えて、木村知事との対談や公開講座などが行われました。対談では、和歌山の自然が持つ癒し効果から知事の家事分担までテンポ良く話は展開。引き続き行われた公開講座でも、海原さんの親しみやすいお話に、参加者の皆さんは笑ったり、うなずいたりとあっという間の2時間でした。

公開講座「素敵に年を重ねるために…心と身体の健康を考える」

「あの人は年より若く見える」とか「年より老けて見える」とか言いますよね。この「若々しさ」の差は、医学的に言うと、美容貯金、健康貯金の差だと言われています。私たちはある程度の健康貯金を持って生まれてくるわけですが、上手に使っている人はあまり減らないので年より若く見えるし、下手に使ってしまう人はどこかの信用金庫のように破綻してしまって老けて見えます。

健康貯金をすり減らす要素は3つあると言われています。1つ目はタバコ、2つ目は過度なお酒、3つ目がストレス。ストレスがかかると自律神経の中の交感神経が緊張して、血圧が上がったり、血液が固まりやすくなったり、ホルモンバランスの変化が起きたりします。一番問題なのは、ストレスによって免疫機能が低下してしまうことです。私たちの体には、NK（Natural Killer）細胞というものがあって、例えばインフルエンザウィルスに感染すると、このNK細胞が感染した細胞と闘って治すんです。気持ちが落ち込むとNK細胞が減り免疫力が下がります。薬でNK細胞を増やすことはできませんが、とても簡単な方法、つまり、笑う、いい気分でいるとNK細胞は増やすことができるんです。いい気分で5分ぐらいいるとNK細胞は増えます。私は「心をクレンジングする」と言っていますが、夜寝る前に「こんなことしてみたいな」「こんなことあるといいな」と思い浮かべて5分ぐらいいい気持ちでいるとNKの値も上がってきます。1日のうち、そういう気分を変える時間を作るというのは健康のために大事なことなんです。

ストレスを溜めやすいのは『いい人』。順応性が高くて、自分の意見や感情を表現しない、嫌でも断りきれずについ引き受ける、「自分さえ我慢すれば」とぐっとこらえる、こういうタイプの人は身体に症状がでたり、鬱になったりすることが多い。また、女性は小さい頃から、「自分の意見を言わずおとなしく周りに合わせているのがいいのよ」なんて言われているから、嫌でもニコニコして我慢してしまうことが多い。やはり、自分のありのままの感情を大切にして、表現していくことが大事だと思います。

ストレスを上手に乗り切るために止めて欲しい言葉があります。「どうせ」「だって」「私なんて」「もう年だから」。心理的にはレッテル貼りとなるからです。水の入った瓶に酢と書いた紙を貼ると、誰も中身を確かめないで酢だと思ってしまうように、一度レッテルを貼ってしまうと中身のいいところを全然見ずにそのとおりになってしまう。だから、今自分や誰かにレッテルを貼っていたら今すぐはがす。まずレッテルを外すというのは大事なことなんです。

次に大切なのが、幸せのアッパーリミットを延長すること。いいことがあっても、「これはまぐれかもしれない」「次は失敗するかもしれない」となかなかいい気持ちでいられない、そんな不安感が脳の回路の中にインプットされている。これが幸せのアッパーリミットで、これをやめられると人間はもう少し幸せな気分でいられて鬱状態にならずに済むと言われています。いいことがあったら十分幸せを味わっていい気持ちになって、今度嫌なことがあったらそのときにめげればいいんだから。

ストレスを乗り越えて素敵に年を重ねるためにすごく大切なことは、自分の才能を見つけることです。私の言う才能というのは、例えば絵が上手で展覧会に入賞するというようなことではなく、絵を描いているのが大好きということです。つまり、結果はどうあれ、その途中経過、プロセスを楽しめることが才能であると思っています。子どもの頃って時間を忘れて遊んでいたこともありましたよね。この年になってもこんなに熱中できることがあってよかったなという才能を見つけてやっていくことが、ストレスを乗り切るのには必要だと思っています。

好きなことをしましょうと言われても好きなことがわからないという人が大勢います。いつもしたいことを我慢しているとしたいことがわからなくなるのです。そういう人は、「ふとこうしてみたい」「ふとここに行きたい」といった「ふと」心に浮かぶことが自分らしさや自分の才能につながっていると言われていますので、ふと何か思ったときにメモに書いておく、1日10分でもいいから自分と向き合う時間を作っていくと、自分らしさがわかってくるんではないかと思います。

大根を買ってきて、冷蔵庫の奥の方に入れておくと、陳ねたり腐ったりして使い物にならなくなって、捨てるときにすごく心が痛むことがあります。私は自分の人生をそういう陳ねた大根にしてはいけないと思っています。上手な料理人は食材を残すところなく全部上手に使うように、私も自分の人生の上手な料理人になりたいなって思います。「私なんてもう年だから」「何やってもダメだから」というレッテルを外して、自分の才能、やってて楽しいことを見つけると、とても素敵に年齢を重ねることができるんじゃないかと思います。そういうふうにやっていくと、バッシングされることもあるでしょう。「余計なことしないで。良い嫁、良い妻だけやっててください」なんて言われても、人に迷惑をかけてなくて、自分らしく生きているんだったら、決してめげないで欲しい。そんなときこそ、「自分は自分の最後の味方になろう」と思っているとすごく元気になる。自分らしさを見つけると人と比較することがないから、「あの人はいいわね」ってうらやましがることも少なくなる。自分らしく生きているのを気持ちよく味わえる人が増えると、世の中の風通しは少し良くなるんじゃないかと思います。

講師　海原純子さんプロフィール

女性のための心療内科医、エッセイスト、歌手。医療の他、新聞・雑誌・テレビ等で女性・教育・環境などの問題にも積極的に取り組んでいる。

男女共同参画いきいき大賞表彰式

家庭・学校・地域・職場などで、男女共同参画を積極的に推進している個人、団体、事業所をフェスタ会場で知事から表彰しました。
受賞された方は、次のとおりです。

☆ベストパーソン賞☆

児玉（こだま） ヒサ子 さん（粉河町）
長年、働く女性の問題に積極的に取り組み、昭和57年に発足した「ゆずり葉会」会長として、男女共同参画のための活発な活動を続けてきた。このたび、創作劇「男女共同参画によるふるさとづくり」を執筆し、「女性の人権」「女性の自立」について強く訴えている。

熱川（にえがわ） 美夫（よしお） さん（橋本市）
地域で託児グループの設立、運営に関わる一方、平成15年度「和歌山県男女共同参画推進員」伊都ブロック長としてリーダーシップを発揮、その気運を今後に繋げるために「ITOWINN」を結成し、代表として男女共同参画社会実現に向けた積極的な取組を続けている。

☆ベストグループ賞☆

office（おふぃす） 2B（にぃびー）（和歌山市）
編集講座で習得したスキルを活かし、シニア向け生活情報誌を隔月発行。順調に発行部数を増やす一方、ホームページも開設するなど、性別・世代・地域に関係なく提供する情報が様々な交流を生み、地域の活性化につながっている。

女性ネット那賀（粉河町）
那賀6町の女性たちが協働し、福祉・環境・教育等のテーマによる自主活動から地域活動へと活動の場を広げ、男女共同参画による新しいふるさとづくりをめざしている。最近では、紀南地域のグループとの交流も深めるなど、郡内外で積極的な活動を展開している。

☆ベストオフィス賞☆

西岡会計事務所（和歌山市）
能力向上のための機会を男女均等に与え、個人が事業主スタンスで業務が行えるよう配慮するとともに、再入社スタッフが中核を成していることから、職場復帰後のケアなど仕事と家庭の両立という視点に立った職場環境づくりに尽力している。

紀南農業協同組合（田辺市）
ＪＡの最高意志決定機関である総代会において、総代550人の23.2%にあたる128人の女性総代を誕生させた。また、女性理事3人を規定化のうえ選出するなど、女性の積極的登用を進め、全国でも男女共同参画の先進ＪＡとして注目されている。

男女共同参画啓発ポスター入賞作品決定!

応募総数233作品の中から、最優秀賞5点、優秀賞13点を決定しました。応募のあった全作品を、和歌山バス㈱の協力を得て路線バス車内へ順次展示します。

- ■展示場所　和歌山市駅～JR和歌山駅間のｼｬﾄﾙﾊﾞｽ5台
- ■展示期間　平成16年12月～平成17年5月
- ■展示方法　1台につき8作品を車窓に展示、1ヶ月毎に作品入替

最優秀賞に選ばれた5作品

山本　有希子 さん
（和歌山市立宮北小学校3年）

奥村　あさひ さん
（和歌山市立河北中学校2年）

出口　菜穂 さん
（和歌山県立星林高等学校1年）

濱田　芽花 さん
（和歌山市立西和佐小学校5年）

鳴神　綾 さん
（和歌山市立東中学校3年）

フェスタ会場でポスター展を
開催しました（12/4～5）

“りいぶる”リレーエッセイ③

ハワードが夢見た田園都市の街づくり

足立　基浩（あだち　もとひろ）

1968年東京生まれ、平成4年慶應義塾大学経済学部卒業。朝日新聞記者、ケンブリッジ大学大学院博士課程を経て、Ph. D（博士号、土地経済学）取得。現在和歌山大学経済学部助教授。専門は土地の経済学、街づくりの経済学、イギリスの地域活性化。

「街づくり」とは何でしょうか？私にとっての街づくりとはまず市民が「街を楽しむ」ことからはじまると思います。

私は大学の教員をやってすでに8年目ですが、毎年夏になると学生達といっしょにイギリスに赴き、街づくりの調査を行っています。これまで多くの都市を訪れましたが、その中でも印象に残っているのがレッチワース・ガーデンシティーです。ここはE.ハワードという著名な建築家が今から100年前にイギリスの片田舎レッチワースで「田園都市」（里山や田畑、水流が近代的な都市景観と融合している街）という街づくり構想を立て、一民間会社が街づくりを興し、行政もこの試みに様々な支援をしてきました。

そして、ハワードが100年前に夢見た「田園都市」が今でもこの地にそのままの形で残され、多くの人が暮らしています。職住接近ののんびりした街の風景、オープンガーデンといって近所の人たちも楽しめる英国式庭園、そして緻密に計画された街並み…。週末には家族が公園でくつろぎ、商店街で買い物をする…。この街にとっての「宝」とは、庭先の花を基調とする豊かな街の農村風景であり、自然に親しむ家族の姿でした。

日本の都市を振り返ったときに、東京を始め多くの街がこのハワードの田園都市をモデルに街づくりをやりましたが、あまり上手くはいきませんでした。それは、「街づくり」や「都市の活性化」の哲学が先行して肝心な「市民が楽しむ」といった視点が欠けていたからだと思います。全国的に画一化された都市制度、財政システムは物が不足していた時代にはそれなりの効果がありました。しかし、少子高齢化、低成長期を迎えた昨今では「市民主導」、「地域主導」の名の元、市民が楽しみながら行う街づくりが必要とされているのだと思います。

ところで、私は和歌山のような自然豊かな都市で身近にできる「街づくり」の一つとしてこの田園構想をヒントに「花づくり」をお勧めしたいと思います。

先日、県立図書館でフラワーフォーラムというイベントが開催され、和歌山市内の高校や周辺地域、美里町などで花づくりを実践しておられる方々が多数おいでになりました。市民が企画したこのフォーラムでは、花づくりに関する事例報告、そしてパネルディスカッションなどが行われました。会場では女性参加者が多数をしめていたものの、男性の参加者もかなりおられました。合計で300人近くは来られていたと思います。

ボランティアで和歌山市内の交差点前の敷地に色とりどりの花々を植え続けてくださった市民の方々がおられました。交差点という慌しい場所で、この花々はこの道を通るドライバー、通行人に対して一服の清涼剤となってきたことと思います。

事例報告では花づくりの楽しさの中にあるいろいろな苦労もお聞きすることができました。花植えのための予算を工面するのに苦慮した経験のある方々もおられました。しかし、チューリップの球根を寄付してくださる方が突如として現れたり、チューリップを一緒に育てようといってくれる人たちが現れたり…。

また、基調講演をしてくださった花づくりジャーナリストの須磨佳津江さんは「花づくり、庭づくりには人間の感情の喜怒哀楽のうち「怒る」の部分がないのです…。だから、誰でも楽しくやれる」と花づくりの魅力について語っておられました。

思えば、花が咲いたときの「感動」は老若男女関係なく平等に楽しめるものです…。そして、その「感動」が、「楽しみ」となり知らぬ間に「街づくり」へと発展してゆくのだと思います。100年前に夢見たハワードの田園構想もそんなところにねらいがあったのではないでしょうか？

私自身、街づくりの視点からこのフォーラムには参加させて頂きましたが「花を育てる」という点ではまだまだの素人です。マンション暮らしではありますが、楽しみながらベランダの花づくりをはじめたいと思います。

地域で活動中のグループ紹介①

office 2B
（オフィス にぃびー）

代　表　宮井（みやい）香女子（かなこ）
連絡先　和歌山市作事丁13
TEL 073-435-3630
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
http://jbpress.cool.ne.jp/

office 2Bは、「元気に歳をとろう！」をキャッチフレーズに、シニア生活情報紙「J.B.press」を奇数月に発行し、和歌山市内で無料配布しています。2002年5月に創刊号を発行し、これまで「プールは泳ぐところ？」「和歌山西国三十三ヵ所めぐり」などの特集、シニアが活動するグループの紹介、健康に関する情報などを掲載し、毎号「出かける、始める」きっかけとなるような情報の提供を心がけています。元気なシニアの元気な活動が、私たちの街和歌山を一層元気にすると考えているからです。

この度、平成16年度「男女共同参画いきいき大賞」の「ベストグループ賞」をいただきました。これを励みとして、私たちの活動がより一層シニアの方々の役に立つものになるよう、今後とも努力し続けたいと思います。

「女性に対する暴力をなくす運動」期間中（11／12～11／25）街頭啓発を実施しました！

男女共生社会推進課 いんふぉめーしょん Information

和歌山県では、女性に対する暴力の問題に対する取組を一層強化するとともに、女性の人権尊重のための意識啓発を図ることを目的として、上記の期間中、県内各地で街頭啓発を実施しました。和歌山市では、11/13（土）にパームシティ和歌山店で、県職員や県警職員のほか、和歌山南ロータリークラブの皆さんにも御協力をき、ハンドタオルや使い捨てカイロなどを買い物客に配布、アトラクションとしてマジックショーも催しました。

●DV被害者支援ボランティア育成講座を開催しました。

9/25～10/17の間（4回1講座）、新宮市井の沢隣保館において、25名の受講者を対象にDV被害者支援のためのボランティア育成講座を開催しました。受講者の方からは、「今後ボランティアの活動に参加した時に役立てたい」「もっと詳しく勉強していきたい」といった今後の活動に向けての意欲的な御感想をいただきました。

12/2施行の改正DV防止法では、「配偶者からの暴力」の定義の拡大や保護命令制度の拡充とともに、市町村による配偶者暴力支援センターの業務の実施が可能になるなど、それぞれの地域での身近な相談窓口の存在がより一層重要視されています。

◎男女共同参画に関する施策苦情処理要領を制定しました（平成16年8月23日）。詳しくは県男女共生社会推進課へお問い合わせください。
TEL 073-441-2510　FAX 073-441-2514
e-mail e0315001@pref.wakayama.lg.jp

発信 わがまちの男女共同参画

このコーナーでは、県内の市町村の男女共同参画行政担当課室を紹介します。

金屋町教育委員会社会教育係　白樫（しらかし）　ゆり

●男女共同参画の取り組みについて

本町では、男女共生プランを今年度中に策定できるよう取り組んでいるところです。今後はそのプランを基に、各課等と調整しながら、町民の方々や各種団体とも協力しあって学習･啓発の機会を増やしていきたいと考えています。

●今年度の啓発事業について

共生プランについて小冊子を各戸配布することで、町の取り組みを住民の方に広報すると共に、講演会の開催を予定しています。また、街頭啓発などの活動を含め、一人ひとりにとって男女共同参画が自分たちの問題であると思ってもらえるよう、各事業に取り組んでいます。

●担当者からひとこと

男女共生社会の実現というテーマを自身に照らしてみて、これからのライフステージにおいて男女の差異により壁にぶつかるかもしれない、身近な問題だと思います。今後、男女共生の新しい社会が全ての人への恩恵となるような志の高い取り組みを考えていきたいです。

地域で活動中のグループ紹介②

女性ネット那賀

代　表　奥（おく）　智子（ともこ）
連絡先　那賀郡粉河町長田中572
TEL 0736-73-7260

『女性ネット那賀』は、輝の国女性県政セミナーを受講した那賀郡6町の女性たちが、「那賀郡は一つ」を合い言葉に集まり、平成10年に結成しました。

いろんな人と出会い心のふれ合いを深めるため、講演会や研修会、地元で取れる農産物を使った料理教室等を開催しています。自分たちの住んでいる那賀郡についての知識を深め、より良いふるさとづくりのため、それぞれの町の情報を互いに交換し合い交流を深めています。

これから、町村合併で那賀郡は2つの市になりますが、男女が同じ人間として、一人一人の生き方に責任を持ち、違いを越えて協働する新しいふるさとを創り出していきたいと思います。会員相互の絆を大切にしながら、自分自身を変え、地域社会に関わっていき、男女共生社会の実現に向かって取り組んでいきます。

特別寄稿　「北京＋10」参加レポート

熱い風につつまれて

和歌山県企画部長（男女共生社会推進センター前所長）　髙嶋　洋子

「女性の権利は人権である」ことを確認しあい、熱烈な拍手に力を得て次のステップへ踏み出した「第４回世界女性会議・北京会議」から、2005年で10年をむかえます。その間さまざまな女性たちの、あるいは男性をも含めた多くの団体が、具体的で実効性のある活動を展開してきました。

その、進捗と課題について情報交換し、今何ができるのか、何をしなければならないかを話し合う場「北京JAC第9回シンポジウム北京＋10に向けて」が2004年10月9日、10日、大阪ドーンセンターに設けられました。

私にとっては、すでに“りぃぶる”から企画部への配置換えが決まった時期でのシンポジウムでしたが、この開催案内を目にしたときからの、「参加したい」という思いは「男女共同参画」担当職員としてだけではなく、個人的に参画しているNPOの一員として、またそれに加えて自分自身の生き方を確認する意味もあり、ゆるぎませんでした。基調講演やパネルディスカッション、それに24におよぶ分科会のテーマや発言予定者・団体、それぞれ興味深く、特に分科会については2つを選択するのに大いに悩みました。

9日は、大沢真理さんの基調講演「北京＋１０に向けて～私たちはどこまできたか～」につづいて、パネルディスカッションがあり、足立眞理子さんから「女性のエンパワーメントと日本の状況」について、ジャーナリストの竹信三恵子さんからは「バックラッシュとマスメディア」について、橋本ヒロ子さんからは「1990年代後半からの世界的に反動的な動きと日本におけるバックラッシュ」について、それぞれ「わたしたちが今なすべきこと」としての提起がありました。

翌日は、分科会です。悩んだあげくの選択の結果を、午前中は「私たちはこう変えた！～市民の政治力・議員の市民力」午後からは「マイノリティの視点からエンパワーメントを考える～複合的な差別からの解放を求めて～」としました。

まず午前中の分科会では「女性を議会へ」という運動の中から生み出された女性議員たちは、どのように活動し、どのように変えてきたのか、各地で男の牙城とも言うべき議会で闘っている中での報告をうけました。街づくりの主役は一人ひとりの市民という原点を常に確認しつつ、議会を身近に感じてもらえるためのこまめな情報発信。たとえば毎日ネットでのレポート発信やお茶懇談会での情報伝達。男女共同参画の視点での政策提言。中高生の居場所づくり。保育サポート体制づくり。等々、具体的で実際的な活動報告は、特に議員へ挑戦しようとする参加者への大きな励ましとなったようです。

午後からは自分自身のライフワークである「反差別」の分科会です。「被差別部落女性の現状と課題」「ネパールのダリット(＊)女性の現状と取り組み」「国際的なレベルにおける課題の解決に向けた取り組み」の三点の発言がありました。ダリットの中でも特に女性は、例えば女性の方が寿命が短いとか妊婦の死亡率が高いとか、88%が非識字者であるとか、家父長制の中で抑圧され続け、基本的権利を奪われている現実があります。そんな中で「ジェンダーとカーストに基づく差別と闘い、公正かつ平等な社会を築く」ことを目標に掲げたダリット女性自身の活動が報告されました。また、「北の女性たちの考える人権が（南）の自分たちの人権を抑圧している」という声があり、そのことも含めて「連帯」を単に心の問題にすりかえてはならないことを痛感しました。「『連帯』という大前提があるのではなく『連帯』の構築に向けて努力していくこと、どんな差別がどんなふうに発展途上国のそれぞれのコニュミティに存在しているのかを見ていき、複合差別という切り口で広い視野の反差別運動のネットワークをつくっていく。」この言葉がずしんと心に響きました。

＊ダリット（Dalit）
「抑圧された者」の意。別名「不可触民」

さて、このシンポジウムへの参加が“りぃぶる”での最後の仕事となり、10月18日付で企画部へと配置換えになりました。1年半の短い期間ではありましたが、たくさんの人との出会いがあり、ずいぶんと多くのことを学ばせて頂きました。“りぃぶる”で出会った女性たちとのネットワークが私の大きな財産です。ありがとうございました。

ごあいさつ　このたび、髙嶋所長の後任として、男女共生社会推進センター所長を拝命いたしました。環境生活部長との兼任となりますが、より一層「和歌山らしさ」を活かした男女共同参画の推進に努めて参ります。これからも皆様の活動と交流の拠点として、“りぃぶる”を御活用くださいますようよろしくお願いします。

和歌山県男女共生社会推進センター所長　津本　清

「りぃぶるシアター　～映画を観て考える男女共同参画～」を開催しました！

11月17日（水）、映画を見てリラックスしながら男女共同参画について理解を深めてもらおうと、“りぃぶる”研修室において、『りぃぶるシアター』を開催しました。

男性3名、女性28名の31名、10代から80代まで幅広い年代の方に御参加いただきました。

鑑賞した映画は、アルツハイマーを患った母の介護を通して、自らの心の傷を見つめ直す女性の姿を描いた「アカシアの道」。多くの参加者が、自分と母あるいは自分と娘の母娘関係、直面している介護の問題など、自分の中の問題と重ね合わせながら映画を観たということでした。鑑賞後行った意見交換の一部をご紹介します。

・主人公は母から「教師になれ。」と言われ続けて育った。どんな生き方も自由に選択できる、自分の選択が尊重される、それが大事ではないか。
・主人公の母親が生きてきた時代は、女性が仕事を持つことすら良しとされていなかった。母親にとっては、「女性が働き続ける」「母子家庭になることを選んだ」ということが世間に対して二重の負い目となっていた。
・自分の親に充分愛情をもらったと思えるから、今つらくとも愛情を持って介護に当たれている。そんな感覚がないままの介護はどんなにつらいものだろう。また、自分の親ではなく、夫の親に同様のことができるかといえば正直わからない。
・「夫は自分の親なのに他人事。嫁である私が看て当然と思っている。」という不満もよく耳にする。介護保険の導入で介護が社会化されたといっても、まだまだ「身内（特に女性）が看るべき」という重圧は強い。性別役割の見直しも重要だし、女性の声を制度の充実のために活かそうという意識も大事。
・親子、しかも同性であるがゆえに難しい母娘関係。時代も環境も違う母娘の持つ女性像はそれぞれ違って当然であるのに、その違いを他人以上に認めあえないのはなぜだろう。

『りぃぶるシアター』次回は2月16日（水）開催です。御参加をお待ちしています。

このビデオは、“りぃぶる”図書情報資料室で視聴いただけます。

“りぃぶる”図書情報資料室から

お薦め新着図書＆絵本

結婚ってどうよ
岡田斗司夫・渡辺由美子著／青春出版社
「結婚したくなる男性がいない」「自分の時間が無くなるのでは…」「でも一人のままだったら…」結婚についての迷い、シングル不安解決のためのカウンセリング本です。

しあわせな結婚
河原まり子作／白亜書房
「ずうーっといっしょにいると思っていた」のに別れた二人が、2年振りに再会し、たくさんのことを語り合った…。喪失を体験した人に送る大人の絵本。

ビデオ入荷しました!

タイトル	制作年	監督・出演	内　　容
デブラ･ウィンガーを探して（97分・VHS）	2002	監督：ﾛｻﾞﾝﾅ･ｱｰｸｴｯﾄ 出演：ﾒｸﾞ･ﾗｲｱﾝ ほか	ハリウッド女優34人の結婚、家庭、子育て、整形、仕事…。彼女たちの素顔、本音が今明かされる…。
百合祭（100分・VHS）	2001	監督：浜野佐知 出演：吉行和子 ほか	タブーだった老年女性の性愛をカラッと描いて、日本中に衝撃を与えた映画がついにビデオ化！
ベッカムに恋して（112分・DVD）	2002	監督：ｸﾞﾘﾝﾀﾞ･ﾁｬｰﾀﾞ 出演：ﾊﾞｰﾐﾝﾀﾞ･ﾅｰｸﾞﾗ ほか	サッカーが大好きなインド系イギリス人の女の子が、多くの障害の中、夢のために奮闘する姿を描く。
フリーダ（123分・DVD）	2002	監督：ｼﾞｭﾘｰ･ﾃｲﾓｱ 出演：ｻﾙﾏ･ﾊｴｯｸ ほか	事故の後遺症に苦しみながらも、愛と芸術に生きた、メキシコの女流画家47年の生涯。
みすゞ（105分・DVD）	2001	監督：五十嵐匠 出演：田中美里 ほか	夭折した幻の童謡詩人、金子みすゞ―短くも波乱に満ちた生涯を端正な映像で描く珠玉の伝記映画。

※ビデオは図書情報資料室内のビデオブースで視聴いただけます。

男女共生社会づくり講座・イベント

男女平等意識啓発セミナー

開催日時	内　容	講　師	開催場所	募集人数	備　考
2/5（土） 13:30～15:00	社会のあらゆる分野で性別にかかわらず、一人ひとりが個性や能力を発揮できるように、男女平等の意識を深めるためのセミナーを開催します。 （基調講演テーマ） 元気をつくる『吉本流』コーチング ～まず「自分が幸せになってね！」～	大　谷　由　里　子　さん （財団法人生涯学習開発財団認定コーチ）	紀南文化会館 小ホール （田辺市）	350人 （先着順）	募集締切 1/25（火） ※一時保育も同じ

りぃぶるシアター　～映画を観て考える男女共同参画～

開催日時	内　容	上映作品	開催場所	募集人数	備　考
2/16（水） 13:30～16:00	映画を観てリラックスした時間をすごしながら、男女共同参画への理解を深めます。	GAEA GIRLS（ガイア・ガールズ） 監督　ジャノ・ウィリアムズ キム・ロンジノット 出演　長与千種、里村明衣子 ほか （あらすじ） 人気女子プロレス団体GAEA JAPANをイギリス人女性監督が捉えた感動のドキュメンタリー。	“りぃぶる” 研修室 （和歌山市）	30人程度 （先着順）	一時保育締切 2/4（金）

歴史の中にみる女性　～女と男の新しい生き方を考える～

開催日時	内　容	講　師	開催場所	募集人数	備　考
3/5（土） 14:00～16:00	力強く時代を切り拓き、生き抜いてきた女性たちの歴史と生き方を通じ、その道すがらにある自分たち女も男も豊かに生きる道を探ります。	宮　﨑　恭　子　さん （社団法人和歌山人権研究所理事）	“りぃぶる” 研修室 （和歌山市）	30人 （先着順）	一時保育締切 2/21（月）

クラフトワーク講座　～紙を使って自分を表現する～

開催日時	講　座　内　容	講　師	開催場所	募集人数	備　考
3/8（火） 10:00～15:00	紙を使って自由に作品を創るプロセスを楽しみ、自分らしさを表現するとともに、参加者が互いに作品を評価しあうことで、自尊感情を高めます。	“りぃぶる”職員	“りぃぶる” 技術講習室 （和歌山市）	20人 （先着順）	一時保育締切 2/22（火） ※雑誌切抜、ハサミ等必要

●申込方法　電話、FAX、Eメールで、住所、氏名、年齢、電話番号を“りぃぶる”までお知らせください。
●受 講 料　無料　●メールアドレス　e0315012@pref.wakayama.lg.jp

“りぃぶる”相談室から　自分を大切にするために…

“りぃぶる”では、女性が抱える様々な悩みを受けとめ、自分らしく生きるお手伝いをしています。
一人で悩まずにまずお電話ください。

◇総合相談◇
毎週月～土曜日　［面接相談］9:00～17:30
［電話相談］9:00～20:30

◇女性のためのカウンセリング◇
毎月第1～4金曜日　13:00～17:00［要予約］

◇女性のための法律相談◇
月3回　13:00～16:00［要予約］
※実施日についてはお問い合わせください。

相談専用電話　073－435－5246

■発行・企画
和歌山県男女共生社会推進センター
りぃぶる
〒640-8319 和歌山市手平2丁目1－2
県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛9F
TEL（073）435－5245・FAX（073）435－5247
URL http://wave.pref.wakayama.lg.jp/danjyo/

会館時間　午前9時～午後8時30分
休 館 日　毎週日曜日・国民の休日（祝日）、年末年始（12月29日～1月3日）

R100 古紙配合率100%再生紙を使用